

共生

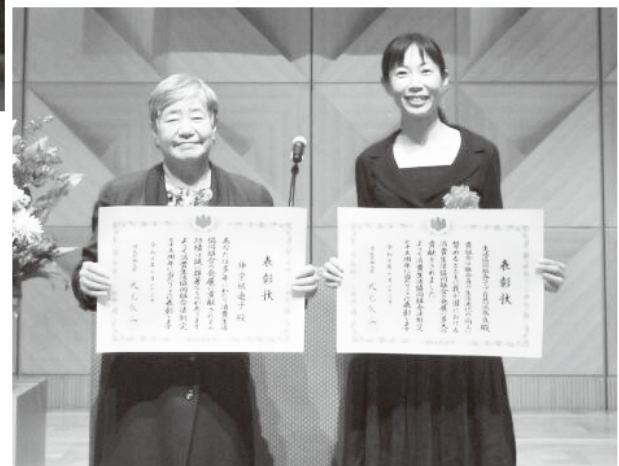
奈良県生協連

2024年1月

NO.131



国連原爆展 in NARA



厚生労働大臣表彰



若者応援プロジェクト奈良2023 in 奈良女子大学

もくじ

新年のごあいさつ：森宏之奈良県生協連会長…	1	市町村訪問 ……………	7
新年のごあいさつ：山下真奈良県知事…	2	若者応援プロジェクト奈良2023 in 奈良女子大学…	8
国連原爆展 in NARA……………	3・4	もったいないキッチン……………	9
厚生労働大臣表彰……………	5	防災シンポジウム	
奈良県生協・行政協議……………	6	関西広域、MCA無線訓練……………	10

新年のご挨拶

2024年、たすけあい協同の心を大切にして、
「安心してらせる地域づくり」を
新しい切り口ですすめる一年にいたしましょう

奈良県生活協同組合連合会 会長 森 宏之



奈良県生協連の会員及び組合員のみならず、新年おめでとうございます。昨年は、コロナ禍明けで、久しぶりのリアル開催となった県連総会、奈良県橿原文化会館での国連原爆展、自治体首長訪問をはじめとした取り組みの再スタートになる一年となりました。本当にお疲れ様でした。その中でも奈良県生協連の様々な活動に対して大きなご協力とご支援もいただき誠にありがとうございました。心から感謝申し上げます。

昨年は世界各地で気候変動による災害の多発、またウクライナ戦争の継続、パレスチナ問題の深刻化など平和の危機が迫り、人類の未来にとって暗いニュースが多かったように思います。いま、世界は食料と資源エネルギーの危機を深刻化させ破壊と争奪と混乱の時代に入ったのかもしれない。しかし今こそ、世界中のすべての人々が平和と豊かさを享受できるような新しい世の中に変えるためには、世界中で市民の行動が必要な時代になっているともいえるでしょう。

さて、奈良県生協連は9つの会員生協が県下40数万人の組合員を組織するにいたりました。この間の30数年ほどの取り組みの中で培ってきた力はまだまだ小さいものではありますが、食とくらし、平和、環境・エネルギー、福祉・子育て、防災の5つの分野で地域社会の一員として行動を積み重ね

てきました。最近では子どもや高齢者への生活支援、地域環境保全や再生可能エネルギーの普及や健康省エネ住宅のリフォーム支援制度構築、地域での障がい者雇用創出などの社会問題の解決につながる活動にも力を注いでいます。そして、県連活動の指針として、国連の持続可能な開発目標（SDGs）の諸課題に対応した取り組みを推進しています。

今年2024年は、これらの取り組みをさらに発展させ、たすけあい協同の心を大切にして、「誰一人取り残さない」安心してらせる地域づくりをすすめる課題と進めていきたいと考えます。また、生活協同組合をはじめとし、奈良県農業協同組合、奈良県森林組合連合会、新たに設立される労働者協同組合など協同組合同士の交流連携を基礎にして県行政並びに市町村の生活担当分野の皆様、奈良県社会福祉協議会、奈良県地域婦人団体連絡協議会をはじめとした各分野の団体の皆様とのさらなる連帯強化を模索しながら、SDGsの諸題に真摯に取り組んでまいります。

今年の干支は「甲辰（きのえたつ）」で、物事を始める好機の年です。協同組合原則に則ってアイデンティティを大切にする、新しい時代への再出発の年です。チャレンジ精神をもって地域共生社会づくりを前進させる年にしましょう。協同組合の活動を奈良県の隅々まで広げて参りましょう。

新年のご挨拶

奈良県生活協同組合連合会
並びに会員生協の皆さまに、
令和6年の初春のお慶びを申し上げます。



守ることと変えること

奈良県知事 山下 真

明けましておめでとうございます。昨年は日本でも世界でも観測史上最も暑かったり、ロシアによるウクライナ侵略に加え、イスラエルとハマスの間でも戦闘が勃発したりするなど、世界の未来に大きな不安を感じざるを得ない年となりました。今年の世界にとっても、奈良県にとっても、県民の皆さまにとっても素晴らしい年となることを強く祈念いたします。

奈良県の魅力と課題

私は、昨年5月3日に県知事に就任させていただき、全身全霊で奈良県を発展させていくことにお約束いたしました。そのためには、奈良県の誇るべきところは守り、問題のあるところは変えていく必要があると申しました。

私たちの先人が守り抜いてきた世界に誇る歴史文化遺産、豊かな自然や景観、災害の少なさ、大都市近郊の利便性など奈良県の有する魅力は、これを守り、さらに発展させていかなければなりません。一方で、①「夫が外で働き、妻が家を守る」との意識を持つ県民の割合が全国1位（2015年）、女性の就業率が全国最低（2020年）など仕事と子育ての両立のしにくさ、②全国39位と低い一人当たりの県民所得（2020年）、全国44位の延べ宿泊客数（2022年）など県内経済の低迷、③全国47位の道路整備率（2021年）などインフラ整備の遅れ、といった奈良県の課題は、早急に改善していかなければなりません。

奈良県民は消極的？

「大仏商法」という言葉があります。国語辞典（小学館大辞泉）によれば、「奈良の大仏に参詣する客が立ち寄るのを待つだけで、進んで

客を集める努力をしない奈良商人の消極性」を示す言葉だそうです。このような県民性が本当に存在するのか、そして、それが上記の奈良県の課題の遠因になっているのか、それはよく分かりません。しかし、いずれにせよ、上記の課題を解決するには、政治家、行政職員、商工関係者、そして県民が前向きな意欲を持ち、課題解決のための有効な手法を探り、そしてその手法を即座に実行するという営みを繰り返していくほかありません。本県も否応なく地域間競争の波にさらされており、手をこまねいていれば発展から取り残され、人口流出が加速するだけです。

守ることと変えること

知事に就任して8カ月が経過しました。党派や経歴が歴代知事と異なるので、県政が混乱しないか心配される方もおられたと思います。しかし、県議会議員や県職員、そして県民の皆さまのご理解とご協力のお陰で、ここまではスムーズに県政の漸進的の改革が進んで来たと思います。

「変えられるものを変える勇気を、変えられないものを受け入れる冷静さを、そして両者を識別する知恵を与えたまえ。」というアメリカの神学者の有名な言葉があります。人生にも通じる名言ですが、守ることと変えることを冷静に切り分け、引き続き県政の舵取りを慎重に進めてまいります。

貴連合会並びに会員生協の皆さまが、ご健勝にお過ごしになり、奈良県が大きく飛躍する今年になりますよう、心からお祈り申し上げます。

「国連原爆展 in NARA」を開催しました



10月20日、21日に奈良県の橿原文化会館展示室で、「国連原爆展inNARA」を開催し、401名の方が来場されました。

(主催：奈良県生活協同組合連合会・ピースアクションをすすめる会 後援：奈良県・橿原市・奈良県教育委員会・奈良YMCA)

国連原爆展は、日本原水爆被害者団体協議会(以下、日本被団協)が、2022年8月にNPT再検討会議にあわせて国連本部内で開催し、会場を訪れた各国政府代表や外交関係者、ニューヨーク市民に感銘を与えました。核兵器がもたらす反人間的な被害とおよそ80年にわたって向きあい続けた被爆者の方々の強いメッセージが込められた展示を身近なところでと奈良で開催することになりました。

会場には、親子、家族、子ども同士、先生と生徒、先生同士など様々な方が訪れ、パネルを熱心に見ながら、語り合う姿が目立ちました。また、会場近くの小学校からは、先生と児童約60名も来場され、子ども同士、先生と子どもで語り合いながら1時間見学されました。「先週広島に行ったが、ゆっくり見られなかった。身近なところでゆっくり見られてよかった」と話されていました。

パネルは、「破壊と殺りく」「ヒバクシャの生と死」「核の脅威」「国連と被爆者の歩み」「核兵器も戦争もない世界に向かって」の5つのコーナーで、48枚展示しました。あわせて、被爆瓦や被爆者健康手帳、平和の絵本、奈良県内の被爆者の証言集や「被爆証言」DVDの上映コーナーも設置しました。



親子で熱心に

21日には木戸季市日本被団協事務局長にお越しいただき、「今、いちばん、伝えたいこと」をテーマにお話ししていただきました。「木戸さんの『命の尊厳』という言葉が印象的でした」「木戸さんのお話を聞くことができ、とても感動しました。教育の話、憲法の話、学生時代の話、どれもわかりやすく情景も浮かびました」との感想が出されていました。

また、工藤雅子日本被団協事務室長に、国連での原爆展開催の経過と想いを語っていただきました。



木戸季市さん

1日目の様子が、奈良テレビで放送され「すでに死んだ弟を背負い焼き場に立つ少年。この写真は2022年、ニューヨークの国連本部で開かれ、市民や各国関係者らから反響を呼んだ国連原爆展で展示されました。」と紹介されました。

参加者の感想 抜粋

かなしかった。5歳

げんばくは関係ない人の命も
うばってしまうので、
もうげんばくはおとさないでほしい。
小学生

生々しいものもあったけど、目をそらしてはいけ
ないと思った。たくさんの今まで平和のために訴えてきた
人たちの思いを引き継いでいかなければいけないし、
その思いを実現できるようにしなければいけないと
思った。
中学生

参加者の感想 抜粋

たった一発の爆弾で多くの人たちが亡くなったり大けがをしてしまい、輝かしい未来が一瞬で消え去られてしまったことに絶望と悲しみを感しました。多くの被爆者や平和を祈る人たちのように心の底から「平和」を願いしっかり声を上げていかないといけません。私はそのような人になりたいです。

高校生

私達の世代はもうドラマでしか触れる機会がなく、どこか他人事のように思ってしまうがちです。ですが、やはり当事者の言葉は響くというか心にグサッとくるものがあります。決して忘れず、今日のような機会に学習を続けていきたいです。

20代

写真を見るだけでも涙が出そうでした。親を子を兄弟姉妹を見送る気持ち、とても辛いです。生き残ったとしても苦しみが続く。本当に何もかもをうばうものなのだと感じます。あってはいけないもの、原爆とはそういうものだなと強く感じました。

30代

奈良でこのような平和について考える機会があることは素晴らしいことです。自分は小学校教員で平和学習も行いますが、平和を考える資料や場が少なく困っているのが現状です。本日子どもたちにも原爆展の話をし実際に足を運んでいる児童もおり嬉しかったです。こういう取り組みが日本中、世界中に広がれば平和の第一歩につながるのかと思いました！ありがとうございました！

30代

核兵器のおそろしさ「人として死ぬことができない、生きることができない」悲しさ、くやしさ、怒りは被爆者の方々からしか受け取れないものだと思った。風化しないように被爆者の方々の思いをつなぐためにこのような活動を続けてくださりありがとうございます。今の世界中で戦争モードになっているのが怖くて仕方がありません。

30代

”確かに訴える続けること“の力強さを感じました。当事者はヒバクシャとされる人たちだけでなく、世の中を作っていく我らひとりひとりである。そう自覚できるような学びを子どもたちと共に積み上げていきます。

30代

一点一点の展示パネルが心にささりました。途中あまりのむごさに涙したところもありました。核兵器を使ったら大変な事になるという事をあらためて確認できた事と、世界に核兵器はあってはならないという事をあらためて確信し世の中の人に知ってもらう事が必要だと思います。核抑止論をすてて核兵器のない世界を願います。

60代

開催時間が21時までありがたいです。仕事帰りに寄れました。絵本も原爆・戦争をあつかったものを一度に読めてよかったです。前座さんの「平和は祈るだけでは実現しない」この言葉が特に心にのこりました。

60代

子どもの写真 胸がしめつけられるようでした。知らないこととしてほうっておくのではなく、自分から学び知っていくこと、これからも続けていこうと思いました。

30代

「原爆は人間として死ぬことも生きることもしない」この言葉が写真とDVDの証言から強く心に残りました。自分が受けた傷とその後におこった出来事で心に受けた傷どちらも人の限界を超える痛みですよ。今も地球上で戦争が行われていることによけいやるせなさを感じます。次の世代に負の遺産を残してはならない。被爆者の方の勇気ある証言をうけて私たちもあきらめてはいけません。

60代



仕事を終えて

厚生労働大臣表彰

奈良県から、生活協同組合コープ自然派奈良と、
仲宗根^{みちこ}迪子さんが厚生労働大臣表彰を受賞しました。



仲宗根さん 上市さん

生活協同組合法を記念して5年ごとに行われるもので、健全な事業運営を行い、他の模範と認められる組合・連合会および役員に対し、その功績をたたえるために実施されています。今回は、法制定75周年を記念して、31の組合・連合会と29名の役員が表彰されました。

生活協同組合コープ自然派奈良は、2022年度創立20周年を迎え、2022年には磯城郡田原本町に新センターを設置し、食と農と環境を守る平和な社会の実現をめざし取り組まれています。仲宗根迪子さんは、現奈良県医療福祉生活協同組合の特別顧問で2021年まで同理事長を務められました。また、市民生活協同組合ならコープ副理事長・奈良県生活協同組合連合会専務理事を歴任され、地域の人々(普通の主婦)と一緒に地域に根を張り組合員の声をもとにくらしの安心・安全を求め続け、地域社会に貢献されました。

この表彰は、昭和23年(1948)年に制定された消費生

これまでに奈良県で受賞された方

- 1993年 奈良市民生協(現ならコープ)
- 1998年 稲川 和夫さん
- 2003年 奈良県労済生協・伊藤 次栄さん、
- 2008年 奈良女子大学生協・瀧川 潔さん
- 2018年 森 宏之さん



表彰式会場前



車中の仲宗根さんと上市さん

厚生労働大臣表彰の表彰式が、令和5年10月23日(月)14時からベルサール虎ノ門(東京都港区)で開催されることになり、厚生労働省から仲宗根迪子さんに受賞者を代表して謝辞を述べてほしいと要請がありました。

表彰式当日は、コープ自然派奈良の上市佳織理事長と仲宗根迪子さんに付添人として奥西奈良県生協連専務理事が同行し、3人で時間に余裕をもって向かいました。しかし、名古屋駅に到着した直後に緊急

放送があり、三河安城駅~名古屋駅間で沿線火災が発生した影響で運転を見合わせると連絡がはいりました。仲宗根迪子さんの代表謝辞もあるため、奈良県、日本生協連、厚生労働省と連絡を取り合い、最悪間に合わない場合に、代表謝辞を司会に代読いただくよう相談しました。結局、約2時間の運転見合わせとなり、表彰式終了直後の到着となり間に合いませんでした。会場で記念写真を撮り、忘れられない受賞となられたことと思います。

2023年度 第2回 生協・行政協議会

11月16日(木) 奈良県コンベンションセンターにて、第2回生協・行政協議会を開催しました。奈良県からは消費・生活安全課から中森課長、吉田係長、澤田主任主事に出席いただき、奈良県生協連役員と意見交換を行いました。奈良県生協連は10月に「2024年度に向けての要望書」を奈良県に提出しました。2024年度県行政にむけ7項目でその内容も多岐にわたる要望に、消費・生活安全課が窓口となり各部局で要望の内容に一つ一つ丁寧に回答いただきました。



食中毒が全国的に多発していること、大麻グミ配布の問題事例について意見が出され、知らせることと、そのための情報発信が重要なことを共有しました。また、なら消費者ねっとの適格消費者団体認定にむけた本申請の状況の共有と認定後の連携についても受け止めがなされました。

奈良県生協連「2024年度 奈良県行政に向けての要望書」のポイント

1. 食品安全行政のさらなる充実強化

- (1) 食中毒リスクの継続的な監視およびHACCPに沿った衛生管理の支援の拡充。
- (2) 子ども食堂が安心して取り組めるよう衛生教育の拡充と支援。

2. 食料自給率の向上

- (1) 奈良県産の地産地消の促進および種子確保に関する情報提供。
- (2) 女性をはじめ新規就農者が参画しやすいよう間口を広げた支援や災害時支援、所得増大、価格保障の充実。
- (3) 減反政策はやめて、財政からの直接支払による農家所得を確保。

3. 2024年度介護保険制度改定への提言、地域医療の充実

- (1) 地域の実情に合った医療・介護・予防・住まい・生活支援が一体となった支援への要望。
- (2) 2024年度介護保険制度改定への要望。
- (3) マイナカードに関して「健康保険証廃止方針」の撤回もしくは同等の体制づくり。

4. 子育て支援、ヤングケアラー支援、学生応援

- (1) こども医療費助成の拡充、乳児の保護者負担の軽減、私立高等学校授業料の無償化の実現、学校給食の無償化、それを支援する学校教員も安心して業務にあたる支援。
- (2) 学生生活や教育を受ける環境格差の是正と配慮。

5. 消費者被害の防止と被害回復について

- (1) なら消費者ねっとの適格消費者団体認定後の県行政との密接な連携。
- (2) 若者の消費者被害防止、高齢者や障がい者の暮らしへの不安解決に向けた施策と体制づくり。

6. 気候変動への対応、なら健康省エネ住宅の推進

- (1) ヒートショックから命を守るための健康省エネ住宅「ひと部屋断熱」の情報提供や支援。

7. 労働者協同組合の推進と支援

- (1) 労働者協同組合法の施行に伴う労働者への助言等の相談・支援窓口の体制整備。

市町村首長訪問 2024年度介護保険制度改定に向けて

「買物支援」「健康・省エネひと部屋断熱」などの地域課題の意見交換をしました

2024年度介護保険制度改定に向けた自治体訪問を前回に引き続き、奈良県生協連森会長・奥西専務理事、ならコープ役員等で訪問しました。また「買物支援」「健康・省エネひと部屋断熱」など地域課題に関する意見交換も行いました。

これまで、天理市並河健市長、奈良市仲川げん市長、大和郡山市上田清市長、明日香村森川裕一村長を訪問してきました。その後の訪問先は以下の通りです。今後も他の市町村へ順次訪問させていただく予定です。

訪問日	訪問先	課題についての意見交換の内容
10月18日	東吉野村 水本実村長	コミュニティナース、直営バスの運転手不足について
10月19日	川上村 栗山忠昭村長	「住民主役」で見えづらい声の小さいことにも対応しなければならないこと
10月24日	黒滝村 植田忠三郎村長	介護・医療・保健の一体型事業の重要性について
10月25日	大淀町 辻本眞宏町長	人材確保が難しいこと、たすけあいやコミュニティ維持について
10月31日	上北山村 山室潔村長	ドローンによる買物支援やオンライン診療と薬の宅配等について
	下北山村 南正文村長	小又川発電所、買物支援、介護・医療の人材問題について
	十津川村 小山手修造村長	デマンド型タクシー、ガソリンスタンドの重要性について
11月7日	天川村 車谷重高村長	4月オープンの温泉との連携やエネルギー開発等について
	吉野町 中井章太町長	居場所づくり・生きがいくくり・役割をもってもらうことについて
11月15日	宇陀市 金剛一智市長	オーガニックビレッジ宣言やジビエ利活用プロジェクト事業について



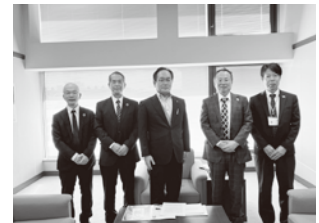
10月18日
東吉野村 水本実村長



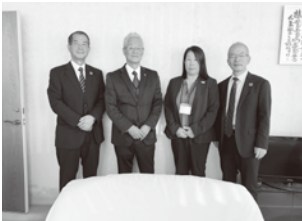
10月19日
川上村 栗山忠昭村長



10月24日
黒滝村 植田忠三郎村長



10月25日
大淀町 辻本眞宏町長



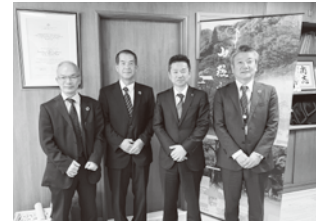
10月31日
上北山村 山室潔村長



10月31日
下北山村 南正文村長



10月31日
十津川村 小山手修造村長



11月7日
吉野町 中井章太町長



11月7日
天川村 車谷重高村長



11月15日
宇陀市 金剛一智市長



若者応援プロジェクト奈良2023

奈良女子大学フードパントリー

10月13日12時から奈良女子大学の生協食堂横の国際交流プラザで、奈良県生協連の若者応援プロジェクト奈良2023の2回目の活動として、奈良女子大学に在籍する学生・留学生を対象にフードパントリーを実施しました。先着順200名分+アルファは12時受付開始後30分でなくなり、残りの雑貨品もなくなり、残しておいたお菓子も含めて全部を340名の方にお渡しして12時40分には終了しました。

大学も対面授業に戻ったものの、物価高騰で学生さんたちが困っている実態が分かりました。



先着順受付。食品の入った袋をお渡し



受付開始と同時に長蛇の列



各テーブルに食品や雑貨類

お渡しした食品 (1人当たり)

- ・インスタントラーメン3袋
- ・レトルトカレー1袋
- ・ツナ缶2
- ・ベビーカステラ1袋
- ・バナナ2本

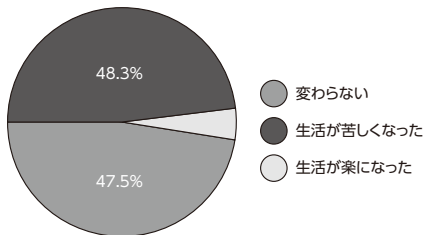


会場風景

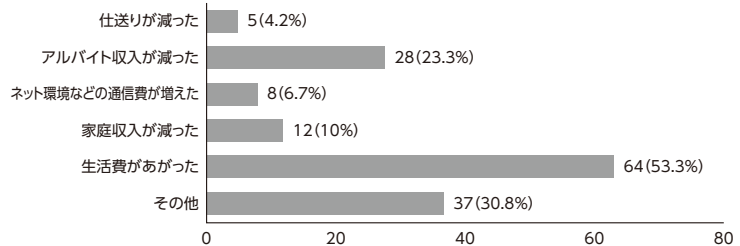
自由にお取りくださいコーナー

文房具、日用品、化粧品、お菓子
 柿、ならコープ農産品(リーフレタス73、小松菜22、フリルレタス116、ミニトマト100、山東菜14、パプリカ3、レンコン1、キウイ1、長ネギ10 合計340個) 購入の菓子(チョコ菓子、ポップコーン、ベビーカステラ各200個)

コロナ後の生活は？



生活が苦しくなった理由は？



学生アンケートから

- ・コロナ後48.3%の学生が、生活が苦しくなったと回答。
- ・苦しくなった理由
 - ①生活費があがった……………53.3%
 - ②その他……………30.8%
 - ③アルバイト収入が減った…23.3%
 - ④家族収入が減った……………4.2%

・お米や生理用品など、日頃から必要なものがおおくて助かります！
 ・最近一人暮らしをはじめたので、生活に必要なものが全然足りない状況でとても助かりました。生理用品が既になくなってしまったので、もう少し在庫を増やしていただけたら嬉しいです。家計が厳しい中での一人暮らしで、野菜の摂取など諦めていた部分があったので本当にありがとうございました。
 ・仕送りが無い生活をしているので、こういった支援はたいへん助かる。もし、今後もあるならば、生理用品が支給されるとたいへん助かる。

映画「もったいないキッチン」上映会



奈良会場・生駒会場

10月は食品ロス削減月間であり「世界食料デー」月間。奈良県生協連の2020年2月の生協大会「食品ロスを減らすために私たちができること」で講師を務めてくださった井出留美さん(フードロス問題ジャーナリスト)とのつながりから、奈良県生協連事務局と啓林堂職員とならコープ理事の有志3名で文部科学省選定作品の映画『もったいないキッチン』を未上映の奈良県で上映する企画が持ち上がりました。食品ロス問題を考えるこの時期に、この映画を上映して参加者と懇親会を開催し、身近なところから始められる解決方法を考える機会をつくろうという企画に、奈良県生協連やならコープや奈良市地球温暖化対策地域協議会、奈良ストップ温暖化の会が協力団体となり上映が実現しました。10月22日に奈良会場(奈良女子大学佐保会館)、10月29日に生駒会場(コープいこま)で上映会が開催されました。



10月22日奈良女子大学佐保会館2階ホール

の集会室で開催し、44名が参加しました。上映と懇親会の合間に、コープいこま和田店長が店の食品ロスの現状と減らす工夫や減らすために組合員さんへの協力をお願いをされました。この会場でもティーカップで紅茶を飲みながら意見交換をしました。ここでも大変深い意見交換ができました。

10月29日の生駒会場は、ならコープ「コープいこま」



10月29日 コープいこまの集会室

映画のテーマ「もったいない」は、食品ロスだけでなくプラスチック問題や再生可能エネルギーや地域循環など環境全般に渡り、経済活動にまで及ぶ深いテーマであり、2つの会場とも後半の意見交換で感想を述べあいました。フードバンク団体、子ども食堂、温暖化問題に取り組む団体や生協、コンサルタント業など様々な立場や所属の方が参加され、奈良県食品ロスポータルサイトに掲載していただき県の食品ロスの担当課の方も見ていただきました。食品ロスを再度考える良いきっかけになったようです。

参加者アンケート

- ・素敵でした。食品ロスの問題から日本の自然や文化や人とのつながり、いろんな輪に広がっていくのがすごいと思いました。
- ・企業や食品ロスが一番の大きな問題かと思いますが、何が変われば改まるのか？誰が動けば良くなるのか考えてしまいます。まず自分から。

「災害発生後の生活再建」を考える シンポジウム

10月28日(土)奈良市西部公民館市民ホールにて、奈良県社会福祉士会・奈良弁護士会の主催、奈良県・奈良県社会福祉協議会の後援で開催されました。

全国各地で豪雨災害、台風災害、地震災害が頻発しています。東日本大震災や熊本地震では、発災より数年経ってから、支援の全くとどいていない家庭が多く存在することがわかってきました。改善に向けて様々な取り組みが進められています。



そして今、南海トラフ地震はいつ発生してもおかしくない状況とされています。奈良県の多くの市町村で最大震度予測は6強です。みんなで考えて準備する必要があります。

被災者には、高齢者や障がい者も多数含まれ、被災者一人ひとりに必要な支援を行うために寄り添う伴奏型支援が重要です。すべては、「被災者が中心」であり、多くの社会的資源による支援が求められ、個別支援を行うためには「困りごとはありませんか」でなく、「どんな被害がありましたか」が基本で、どれだけ情報を集められるかが大事になります。「避難行動」はもとより「避難生活」までを想定した準備が必要で、普段からのつながりと居場所づくりを気に掛けることが大切です。

令和5年度関西広域応援訓練 第3回非常用通信機器訓練に参加して

10月27日(金)令和5年度関西広域応援訓練、11月14日(火)第3回非常用通信機器訓練、11月28日令和5年度関西広域応援訓練(実働)に参加して非常時、被災地に支援物資を届けることを想定した訓練を体験してきました。

関西広域応援訓練オンラインでは南海トラフ地震の発生を想定して被災地に直接物資を届けず、代わりに一旦物資を集める0(ゼロ)次物資拠点を設定し、それを支援する支援県、物資を運送する民間物流事業者、必要な物資を揃える民間の協定事業者が連携をとる模擬訓練をオンライン上で行い、実働訓練にも参加しました。

また、非常用通信機器訓練においてはMCA無線を用いて支援物資調達を想定した訓練を伝言ゲーム形式で行い、関西地連から各府県連、単協へとつなぎ伝言内容を正しく伝えられるか、普段使うことのないMCA無線の取り扱いなどを含めての訓練となりました。



MCA無線を使って訓練する県連事務局 三谷さん

関西広域応援訓練では訓練後、参加しての感想や気づいた点など今後の改善にむけてディスカッションを行いました。府県同士や民間の物流事業者や協定事業者間とのやり取りが多岐にわたっており、参加者の中でも一見ただけでは理解出来ない方が多かったので、実際に災害が発生した時に訓練通りに連携を取り合えるよう訓練の機会を増やしていく必要があることを強く感じました。今回想定した南海トラフ地震を含めいつ起こるかわからない災害に対し、しっかりと連携をとって支援を進めていけるよう今後も積極的に訓練に参加していきたいと思っています。

県連日誌

10月

- 3日(火) 生協の生成AI学習会
- 4日(水) 近畿地方LPガス懇談会WEB
- 8日(日) おてんとさん法人10周年記念式典
- 11日(水) ピースアクションをすすめる会
- 13日(金) 奈良女子大学フードパントリー
- 14日(土) 第5回協同組合の地域共生フォーラムWEB
- 18日(水) 東吉野村水本村長訪問
- 19日(木) 川上村栗山村長訪問
憲法学習会実行委員会
- 20日(金) 国連原爆展inNARA
- 21日(土) 国連原爆展inNARA
- 22日(日) 「もったいないキッチン」映画会
- 23日(月) 厚生労働大臣表彰式
- 24日(火) 黒滝村植田村長訪問
なら消費者ねっと理事会
- 25日(水) 大淀町辻本町長訪問

- 25日(水) 「もったいないキッチン」映画会
- 28日(土) 災害発生後の生活再建シンポジウム
- 30日(月) 吉野共生プロジェクト推進委員会
- 31日(火) 上北山村山室村長訪問
下北山村南村長訪問
十津川村小山手村長訪問

11月

- 1日(水) 日生協2023年度経営セミナー
- 6日(月) なら健康省エネ住宅県民会議
- 7日(火) 天川村車谷村長訪問
吉野町中井町長訪問
- 8日(水) 上期監事監査
- 10日(金) ピースアクションをすすめる会
- 14日(火) 非常用通信機器訓練
- 15日(水) 宇陀市金剛市長訪問
- 16日(木) 第2回生協・行政協議会及び第4回理事会
- 22日(水) 消費税増税反対関西連絡会WEB

- 23日(木) 憲法学習実行委員会
- 24日(金) 関西消団連・大阪ガス定期懇談会
- 28日(火) 令和5年関西広域訓練
なら消費者ねっと理事会
- 30日(木) 第3回関西地連運営委員会
第2回県連活動推進会議

12月

- 1日(金) 関西消団連・関西電力定期懇談会
- 4日(月) 若者応援プロジェクト奈良・さつまいも贈呈
- 6日(水) 令和5年奈良県農村活性化推進委員会WEB
- 8日(金) 関西消団連・大阪ガス見学会
- 15日(金) 香芝市福岡市長訪問
- 19日(火) 関西消団連・三井化学大阪工場会議、なら消費者ねっと理事会(オンライン)
- 26日(火) 平群町西脇町長訪問、御所市東川市長訪問、葛城市阿古市長訪問

お知らせ

第33回奈良県生協大会

一步踏み出せば女性も地域も変わる

つながる力で安心してくらせる地域づくりをめざして

基調講演：浜田 敬子氏(ジャーナリスト)

日時：2024年2月24日(土) 13:30~16:00 (開場13:00)

会場：奈良県コンベンションセンター2階 会議室203・204
(奈良市三条大路1丁目691-1)

参加対象：会員生協の組合員及び役員職員、自治体職員、諸団体、県民など

定員：400名 参加費：無料

パネルディスカッション：各取り組みや経験、講演の感想等

申し込み：奈良県生活協同組合連合会 Tel 0742-34-3535 (月~金 9時から17時)

講師紹介

浜田 敬子氏

(はまだけいこ)
ジャーナリスト/
前 Business Insider
Japan 統括編集長/
元AERA 編集長



「羽鳥慎一モーニングショー」「サンデーモーニング」のコメンテーター。著書に『働く女子と罪悪感』『男性中心企業の終焉』『いいね! ボタンを押す前に』(共著)

編集後記

御堂筋の「ど根性スイカ」ならずとも、11月末季節外れの「ど根性スイカ」ができた。放置していたハウスのなかで1玉だけ10キロ超えの大王、しかも食味良好。11月は温かく、今年は最も気温が高い年のなかCOP28が開催された。決して喜べない。(武)

セミナー「SNSから忍び寄る罠」にオンラインで視聴させていただいた。ステマ、インフルエンサー・Rating... 何それ? 知らない間に罠に!...と思うと早く奈良にも適格消費者団体をと改めて感じた。(和)

息子たちのパートナーの仕事ぶりから見える出産後も働き続けるための高いハードル。介護問題もあり女性だけの問題ではない。誰もが課題を抱えながらもいきいきと働ける社会ってどんなだろう。(順)

友人に指摘されて最近気づいたのですが、どうやら私は喧嘩の仲裁に入るタイミングが遅いらしいです。「何で止めてくれへんかってん」と何度か怒られました(これはこれで理不尽)。国同士のいさかい事も然り。当人同士ではなかなかやめることができないのですよね。(豊)

東京の区で区長が女性・女性区議が半数というところがあるそうです。どのように区政が変わっていくのかとても楽しみです。こんなことが地方でも進んでいけば、世の中を少しずつ変えていけるのだろうか? 誰もが生きやすくなる(佳)

奈良県生活協同組合連合会 〒630-8136 奈良市恋の窪1丁目2-2

TEL 0742-34-3535 FAX 0742-34-0043

URL <https://www.narakenren.coop/>